

よろしく「えぶりん」です

江釣子地区ゆるキャラ初披露

江釣子地区交流センターで3日に行われた楽生学級・江釣子学級合同閉講式で、地区PRを担う「えぶりん」が披露されました。これは同地区自治振興協議会(三田長義会長)が公募し26年11月に決定したもので、古墳時代からよみがえったカムイヘチリコホ生まれの古代人。「貫頭衣」「勾玉」「みずら」という古墳時代のいでたちに、地区の花ヒマワリを付け、江釣子特産のセリを手にしています。三田会長は「地区のシンボルとして活躍してほしい」と期待しています。

今後、江釣子地区内のさまざまな行事に登場します



やわらかいディスクは、ぶつかっても痛くありません

安全に楽しくスポーツ

第3回 きたかみドッチビー大会

第3回きたかみドッチビー大会(北上市フライングディスク協会主催)は1日、北上総合体育館で行われました。ドッチビーはドッチボールのボールをフライングディスクに代えたスポーツで、同協会は運動不足になりがちなこの時期に毎年開催しています。当日は市内外から4チームが参加。日本ドッチビー協会が考案したドッチビー体操で体をほぐし、リーグ戦で順位を競いました。なお、フライングディスクはいわて国体のデモンストレーション競技に採用されています。

この品、お勧めですよ

逸品お披露目会

きたかみ「逸品お披露目会」は2月22日、さくら野百貨店北上店1階で行われました。市の緊急雇用創出事業で北上商工会議所が主催し今回が初めての開催。市内の事業所自慢の商品を紹介するものでスポーツ店のマッサージ用ローションや、すし店お勧めのメニューなどが来場者に紹介されました。来場した小田島真由美さん(本通り)は「勧められたお茶を試してみたら、好みの味だった。行ったことの無いお店の商品を知ることができた」と話していました。

漢方薬店お勧めの商品を試してみる来場者



ひな人形を前に、訪問先の家庭で振る舞われたお菓子を食する子供たち

じんぞこみさきたあんちゃ

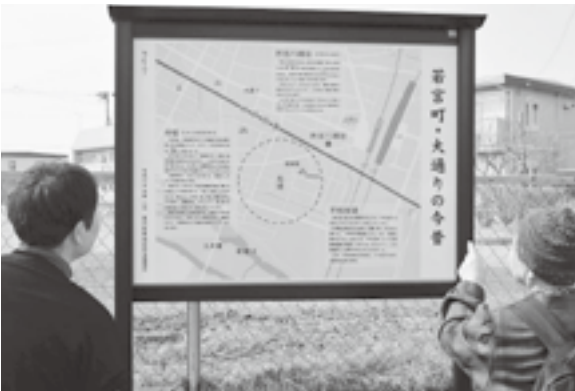
岩崎里小屋地区ひなまつり

和賀町岩崎の里小屋地区では、3日のひな祭りに子どもたちが地区内の家庭に飾られているひな人形を見て回る行事が毎年行われています。当日回るコースは、年長の子が中心になって決定。学校を終えた小学生たちは「じんぞこみさきたあんちゃ(人形見にきました)」と声を掛け、30軒ほどを訪問しました。子どもたちが訪れると、家の人が手作りのお菓子などを振る舞いました。家庭に飾られている人形は、7段飾りや花巻人形などさまざまです。

地域の歴史を伝える 舟場児童公園の説明板設置

黒沢尻東地区自治協議会(川村陸会長)は2月26日、若宮町の舟場児童公園に地域の歴史を伝える説明板を設置しました。地域の文化・歴史遺産への理解を深めることを目的に同協議会が18年度から始めた事業で、これまで案内板など11基を設置しました。かつての若宮町周辺は「舟場」と呼ばれ和賀川の渡し船の拠点として栄えました。説明板には地名の由来や伝承などが書かれており、今後説明板を巡るウォーキングなどを行い、地域の文化の継承に活用していきます。

若宮町の町名の由来などが読みやすく説明されています



陸前高田絆の会の皆さんが気持ちを込めて書いた習字も掲げられました

鎮魂の祈りを 3.11追悼夢灯り

黒沢尻22区有志の会による3.11追悼夢灯りは11日、常盤台自治公民館で行われました。これは東日本大震災の犠牲者を追悼するもので、地区内外から約100人が参加しました。風が強かったため室内に献花台を設置。玄関前に並べられた灯籠約200個に灯りをともし、黙とう後、追悼の歌と舞が捧げられました。陸前高田市から避難後、住宅を再建された佐々木敏さん(常盤台)は「今年もこの日がきた。これからも忘れずに祈り続けたい」と話していました。

百歳これからもお元気で！

簡正美さん



和賀町藤根にお住まいの簡正美さんが百歳を迎え20日、高橋市長が自宅を訪問し祝い状と記念品を贈りました。正美さんは大正4年3月20日生まれ。19歳で故次兵衛さんと結婚し、子6人をもうけ、孫11人、ひ孫11人に恵まれています。最近の楽しみは、デイサービスでお風呂に入ること。食べ物の好き嫌いは無く、丈夫な歯が自慢です。正美さんは「こんなに長生きすると思わなかった」と喜んでいました。

本通りにお住まいの佐藤シケさんが百歳を迎え16日、高橋市長が自宅を訪問し祝い状と記念品を贈りました。シケさんは大正4年3月16日生まれ。19歳で故喜代美さんと結婚し、子5人をもうけ、孫10人、ひ孫17人に恵まれています。テレビを見ることが楽しみで、好きな食べ物は肉や酢の物、お餅。几帳面で今でも身の回りのことは自分でしており「自分でしょうとする気持ちが長生きのひけつ」と話していました。



佐藤シケさん

及川マツノさん



村崎野にお住まいの及川マツノさんが百歳を迎え10日、高橋市長が自宅を訪問し祝い状と記念品を贈りました。マツノさんは大正4年3月10日生まれ。24歳で故長助さんと結婚、早くにご主人を亡くされ一人で3人の子を育て上げました。現在は孫6人、ひ孫4人に恵まれています。2年ほど前まで一人暮らしでしたが現在は長男の豊さん家族と同居しており、長生きのひけつは「マイペースに生活すること」だそうです。